

リスクアセスメント体系

1. リスクアセスメントとTBM-KYの統合
2. OHSMSの運用体系
3. 職場におけるリスクアセスメントの位置づけ
4. (参考) リスクアセスメントとTBM-KYの比較及び関係



オフィスキャロット 編

平成 25 年 5 月 1 日

1. リスクアセスメントとTBM-KYの統合

リスクアセスメントとTBM-KYの統合について

当社RA=(M+RA)+(RA)+(TBM-KY)

当 社 R A		職場(営業所・作業所)	
事業所(本社)		TBM-KY (作業届による安全衛生施工サイクル)	
	M+RA(マクロ-リスクアセスメント) (安全衛生管理計画書、安全衛生重点管理目標、作業標準書、手引き)	RA(リスクアセスメント) (全工期(年間)安全衛生施工管理表、月度安全衛生施工管理表、施工計画書、安全作業手順書)	
いつ	・毎年の安全衛生計画を作成する前 (年1~2回)	・毎年の職場安全衛生計画を作成する前 (年1~2回)、または(月1~2回)	・作業開始前に (毎日または作業の都度)
誰が	・システム管理者、スタッフ (施工管理者、スタッフは間接的に関わる)	・施工管理者、スタッフ (作業責任者、作業者は間接的に関わる)	・作業責任者、作業者
何を	・主に設備(仕組)面の対策 (ハード、ソフト) (管理システムの監視・指導、情報発信、作業手順の標準化)	・主に管理(方法・手順)面の対策 (ハード、ソフト) (作業方法、作業手順のローカル化)	・主に行動(制限・喚起)面の対策 (ハード、ソフト) (ヒヤリハット、ヒューマンエラー、標示、許可制度、確認・指示)
どのように	・統計資料を吟味・確認しながら(再評価) ・手順に従って進め(日宝MSの手順) ・よく話し合っ(資料の検討) ・数値化を通し、抽出する。(項目の枠組)	・作業(工事)内容を確認しながら(再評価) ・作業(工事)の流れに従って(工程・日程) ・よく話し合っ(資料の検討) ・数値化を通し、枠組を決める(事項の枠組)	・作業方法を確認しながら(手順の遵守) ・指示以外の作業を禁止の指示(作業の制限) ・即決即断(その場で出来ること) ・伝達する(数値化しない、イメージの伝達)

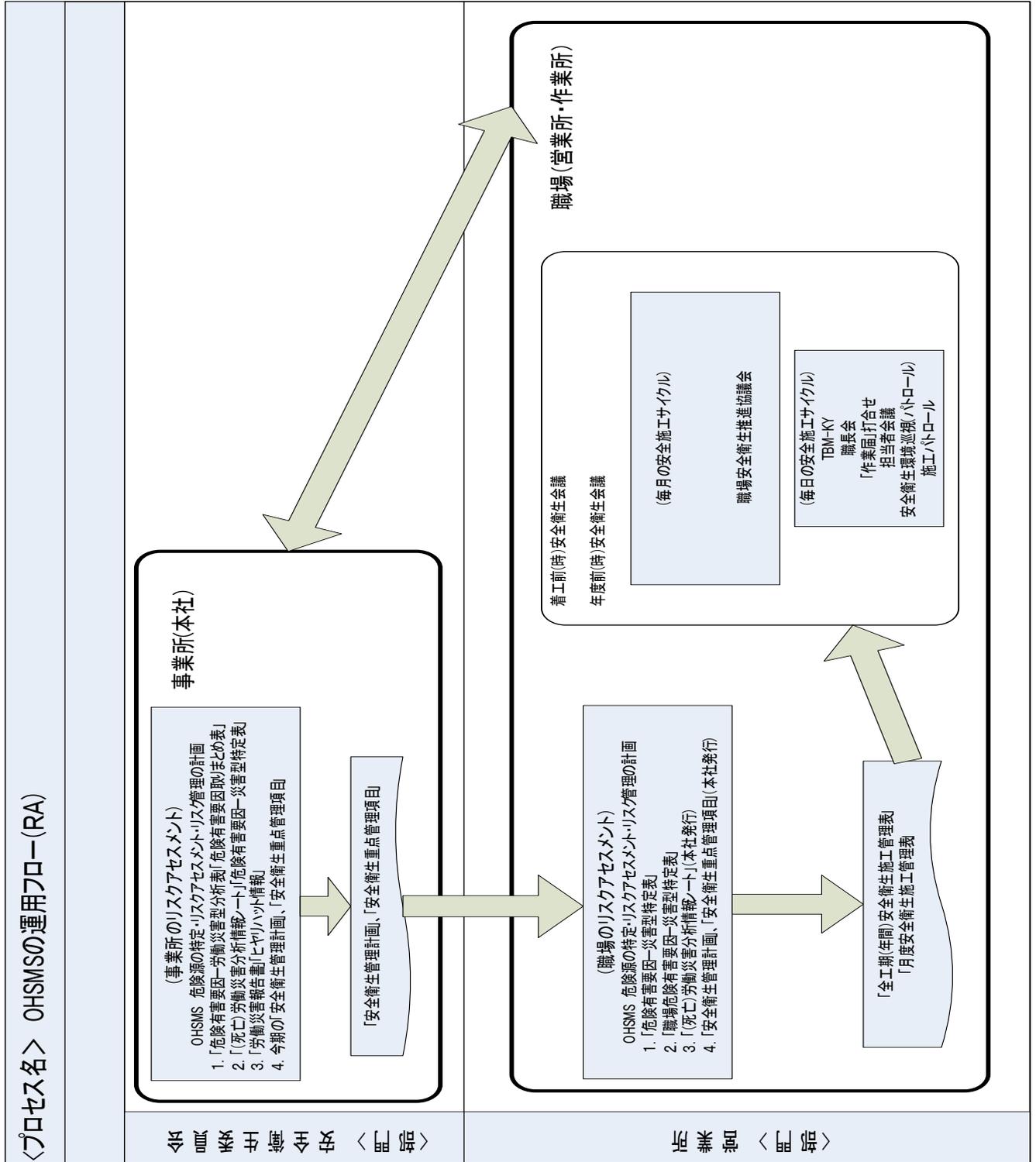
◎RA(リスクアセスメント)の特性(フェイルセーフ、本質安全)

- ① 大きなリスク向け
- ② 年(工期)に1~3回しか実施できない
- ③ 客観的な評価ができる
- ④ リスクレベルに応じた合理的な対策を講じる

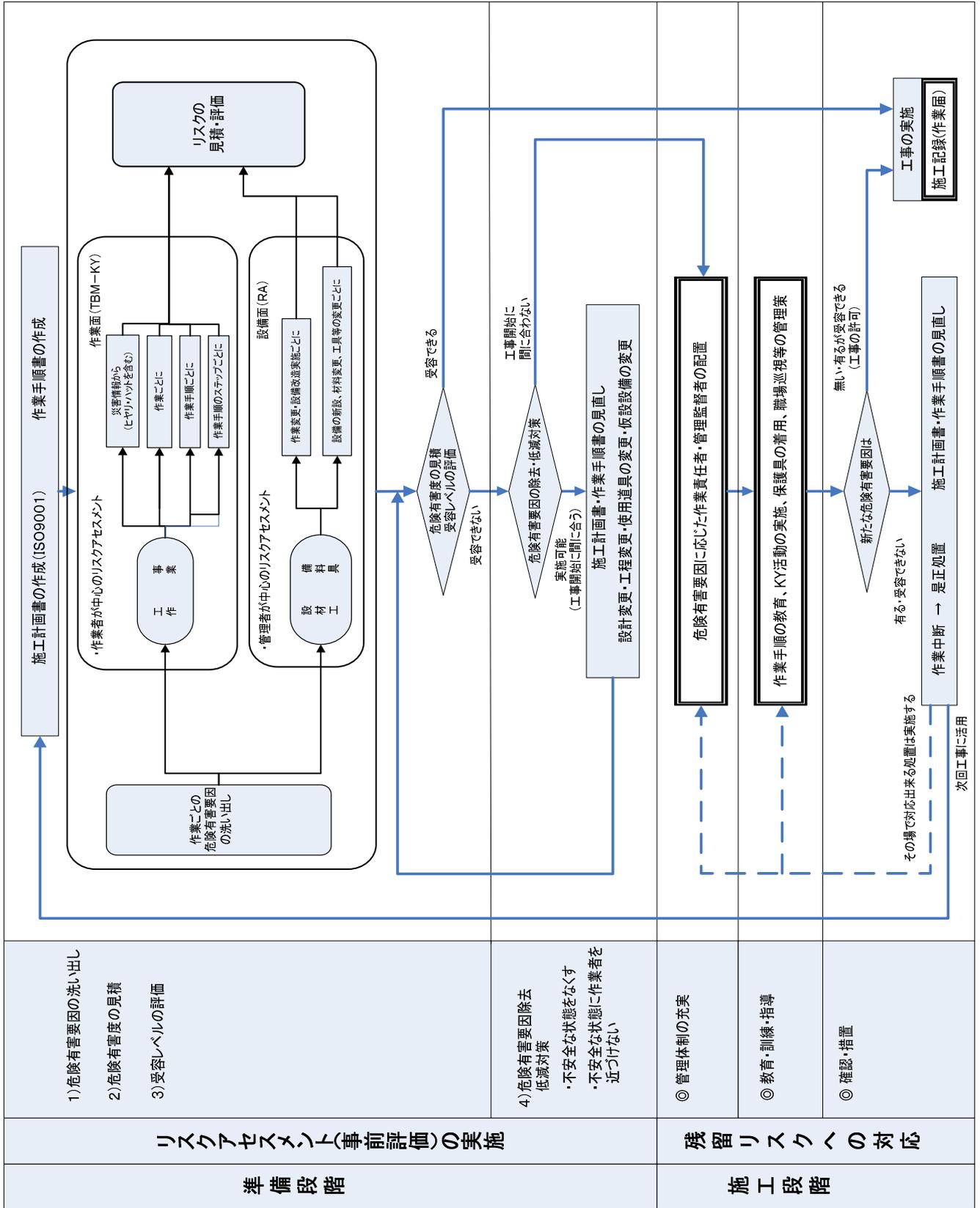
◎KY(危険予知)の特性(迂回、回避、五感の喚起)

- ① 小さなリスク向け
 - ② 毎日でも行うことができる
 - ③ 主観的に(経験・チャックリストに基づいて)進める
 - ④ その日に実施できる対策を行う(KY活動)
- ※ リスクアセスメント実施のための情報とすることができる
ヒヤリハット情報の収集・職場パトロール結果による改善情報の収集
作業手順情報の収集、設備面の情報の収集
情報抽出は作業届を使用し、作業届打合せにて行なう。
(間接的に関わる部分)

2. OHSMSの運用体系



3. 職場におけるリスクアセスメントの位置づけ



4. (参考) リスクアセスメントとTBM-KYの比較及び関係

$$RA = (M \cdot RA) + (RA) + (TBM - KY)$$

(手順比較)

リスクアセスメント (RA) の手順	KYT の手順
手順1 危険有害要因の洗い出し どんな危険 (リスク) が潜んでいるか	第1ラウンド [現状の把握] どんな危険 (リスク) が潜んでいるか
手順2 リスクの見積り・評価 決めた基準で算定する	第2ラウンド [本質追求] これが危険のポイントだ (全員の合意で)
手順3 リスクの低減対策の検討 許容できるレベルを決める	第3ラウンド [対策樹立] あなたならどうする (個人が出来ること)
手順4 優先度および対策の決定 許容可能なレベルのための標準化、手順化をする	第4ラウンド [目標設定] 私たちはこうする (全員の合意で)

ポイント

- 1 RAの洗い出しはKYTの第1ラウンドの要領で行う。
- 2 RAでの危険有害要因の評価は企業、事業所の評価基準に基づき厳格に行うのに対し、KYTの本質追求は参加者の合意で決める。
- 3 危険有害要因の低減対策は、企業、事業所の低減対策ルールに基づき行うのに対し、KYTの対策樹立は参加者が実際に実行できること。

(RA と KYT の関係)

	リスクアセスメント	KYT
同じ所	危険有害要因の洗い出し ・ 危険源・有害源 (～なので) ・ 人 (～して) ・ 危険状態 (～の時) ～がなくて ・ 危険事象 (～になる)	第1R どんな危険が潜んでいるか ～なので (もの) ～して (人) ～になる (事故の型)
違う所	リスクの見積り・評価 各々 (複数) の危険有害要因についてリスクの見積り・評価を行なう。	第2R これが危険のポイントだ 複数の危険有害要因からその日の作業で特に重大なものを選定する。
	リスクの低減対策 リスクの大きさに対応してリスクを具体的に除去・低減する対策を見出す。	第3R あなたならどうする 経験に基づき思いつく対策 (実施事項) を出し合う。 第4R 私たちはこうする 実施事項を絞り込む。